

里山で見られる植物たち

夏編

01 ヤブミョウガ



科名：ツクサ科 / 花期：7～9月

関東以西の暖地に自生する多年草。地下茎で増え、薄暗く湿った林などに群生する。葉の雰囲気似ているが、野菜のミョウガ(ショウガ科)とはまったく別の種類。

02 ネジバナ



科名：ラン科 / 花期：6～8月

草丈は10～40cmほど。道端や公園に自生する。花が、らせん状につくことが名前の由来で、右巻き・左巻きがある。ピンクの小花が細い茎の周りに並ぶ姿が特徴的。

03 ヤブツルアズキ



科名：マメ科 / 花期：8～9月

つる性の一年草。野原や道端に生え、他の植物に絡んで成長する。葉は3枚1組。細長い莢(さや)には小粒の種子が入る。アズキの原種とされ古くから食用にされた。

04 コマツナギ



科名：マメ科 / 花期：7～9月

日当たりの良い場所に生える低木。「駒繫」という名前の由来は、根が丈夫で馬をつなぐことができるからとも、馬が葉を好んで食べ、離れなくなるからとも言われている。

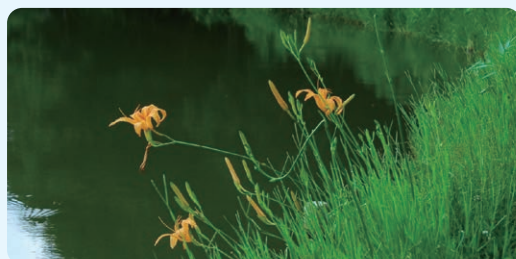
05 ニガカシュウ



科名：ヤマノイモ科 / 花期：8～10月

多年生つる植物。一部の品種は食べることができ、特に西アフリカでは食用に栽培されるが、日本で自生しているものは利用されることはなく雑草として扱われる。

06 ノカンゾウ



科名：ウスレグサ科 / 花期：7～8月

野原や道端などのやや湿り気のある場所に自生。1mほどに伸び鮮やかなオレンジ色の、ユリに似た花を咲かせる。花(つぼみ)や若芽は食べることができる。

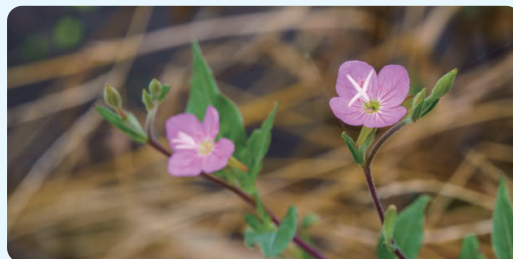
ヒメヒオウギズイセン



科名：アヤメ科 / 花期：7～8月

園芸ではモントブレチアの名前でも知られる。耐寒性があり繁殖力旺盛。乾燥した荒地から湿地に至るまで幅広い環境に適応し、世界中で野生化している。

ユウゲショウ



科名：アカバナ科 / 花期：5～9月

南米から北米南部が原産。アカバナユウゲショウ（赤花タ化粧）と呼ばれることもある。夕方に咲く美しい花として名づけられたが、実際は昼間でも咲いている。

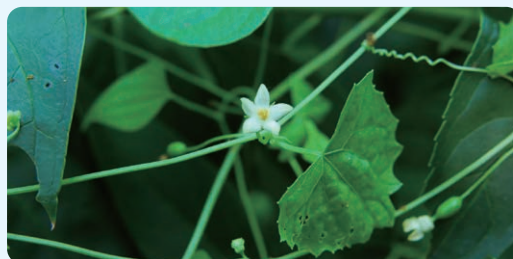
テイカズラ



科名：キョウチクトウ科 / 花期：5～7月

日本原産。常緑つる性の木。和名は平安時代の歌人・藤原定家の伝説に由来。茎や葉を切ると有毒の乳液が出る。花はプロペラのような特徴的な形になり、甘い香りがする。

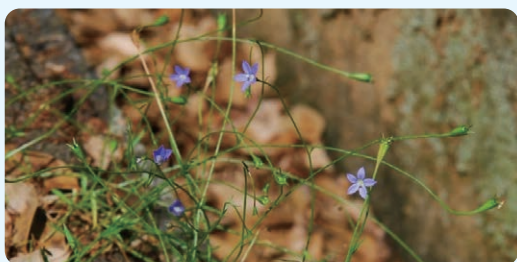
スズメウリ



科名：ウリ科 / 花期：8～9月

つる性一年草。和名はカラスウリより小さいことや、実をスズメの卵に見立てたことに由来。熟すと白くなる。秋につるが土にもぐり、養分を蓄えた太い根となり冬を越す。

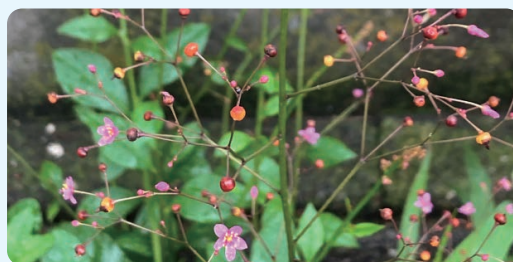
ヒナギキョウ



科名：キキョウ科 / 花期：5～8月

在来種の多年草で道端に生える。和名はキキョウに似た花を咲かせ、小さいことから、キキョウソウやヒナギキョウソウという名前の似た外来種があり間違えやすい。

ハゼラン



科名：ハゼラン科 / 花期：7～9月

南米原産。午後2～3時頃に咲き、数時間で閉じる。姿がかわいらしいので観賞用にも栽培されるが、こぼれ種でよく増えるため、周辺に野生化しやすく注意が必要。

